問いをもちながら学ぶ子どもを育成するために
―国語科　読むことの単元を通して―

小西　かおり

To bring up the child who learns while having a question
-Through the unit of reading language arts-

Kaori KONISHI

教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要

第４号 （2022年１月）

Journal of Educational Research
Center for Educational Career Enhancement

No.4（January 2022）

問いをもちながら学ぶ子どもを育成するために
―国語科　読むことの単元を通して―

小西　かおり
京都教育大学附属京都小中学校

To bring up the child who learns while having a question
－Through the unit of reading language arts－

Kaori KONISHI

2021 年 8 月 31 日受理

抄録：本研究は子どもたちが主体的に，学習の見通しをもって学ぶ姿を目指し，問いをもちながら学ぶ国語の単元学習を行った実践研究である。年間を通して，「読むこと」の単元の中で学習課題と身に付けたい力を意識し，課題に迫るためにはどのように学びを進めていくとよいかを考えながら問いを立てて学ぶ授業を行った。学習課題に向かうために，問いをもちながら学ぶ経験を繰り返すことで，子どもたちの主体的な学びにつなげることができた。

キーワード：子どもの問い 主体的な学び　言語活動　授業改善　読むこと

Ⅰ．はじめに

本研究は，子どもたちが国語科の授業の中で学習課題の解決に向かって主体的に学習に取り組む姿を目指し，「問いをもちながら学ぶ」ことを重視して授業を行った実践に基づき考察したものである。

2020 年 4 月から，小学校で新しい学習指導要領が全面実施された。この学習指導要領では，主体的・対話的で深い学びの実現に向け，授業改善を進めていくことが必要であると述べられている。また，平成 28 年の中教審答申(平成２８年１２月２１日)においては，「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『主体的な学び』が実現できているか。」といった授業改善の観点が示されている。主体的な学習者を育てるためには，学習者である子どもたちが，教師の導くままに学習を進めていくだけではなく，自分自身がどのような力を身につけるのか，また，その力を身につけるためには，どのような学習をしていくべきかを意識させることが重要である。そのための方策として，「問いをもちながら学ぶ」ということに着目した。国語科の授業の中で，子どもたち一人一人が，今もっている自分の力を基に，「学習課題の解決にたどり着くにはどうしたらいいだろう。」と，課題解決のための自分自身の問い（私の問い）を立て，それを解決しながら学ぶことが，主体的に学ぶ力の育成につながるのではないかと考えた。

1. 問いをもつということ

子どもたちと教室で学んでいる時，「A と B だったらどっちが自分の考えに近いと思う？」「〇〇さんだったら，この時なんて言っていたと思う？」など，子どもに問いかけることがよくある。学級全体に対して問うこともあれば，子ども一人一人に，学習の支援として問うこともある。その時の学習課題に対して，どのように学びを進めるといいか分からず，立ち止まってしまっていた子に，問いを投げかけると子どもたちはよく考える。「どっちかを選ぶならこっちかな。でもそれもぴったりじゃなくて，こんな気持ち。」など，そこから発展して自分自身の考えをもてるようになることも多い。しかし，他者から問われたことには答えられても，その後，次のステップに進めずにまた立ち止まってしまっている場合もあった。そんな時，課題をしっかりと見つめ，自分で自

分に問いかけながら考える力を付けることができれば，自分自身の力で課題に向かって学ぶことができるのではないかと考えた。

2. 主体的な学びにつながる問いとは

「読むこと」の単元の中で，学習課題を提示して子どもたちに問いを立てさせると，大きく分けて２種類の問いが出てくる。１つは物語や説明文の内容に関わる問い，もう１つは，学習課題解決の道筋に関わる問いである。学習者自身が，どのような力を身につけるために学ぶのかを考え，学習の見通しをもって学ぶという観点から考えると，後者の問いをもつことが望ましいだろう。しかし，「読むこと」の単元で物語や説明文を読んだ上で，問いを立てた場合，前者のような文章の内容に関わる問いが多くなる。これは，目の前の文章を読むことに意識が向いているせいだろうと考える。物語や説明文に興味をもち，疑問をもちながら読み進めることは，大切ではあるが，その中の問いを解決するだけでは，単元で付けたい力を身につけるには不十分であることが多い。子どもたちが，目の前の文章を読むことだけではなく，その先にある学習課題や身につけたい力を見通せるような問いをもつには，教師としてどのような支援ができるのだろうか。

今回，小学校第三学年国語科で，３つの「読むこと」の単元の実践を行った。どの単元も，学習課題と身に付けたい力を単元の初めに子どもたちに提示し，学習課題に向かうための問いをもち，それを解決しながら学習を進めていくことを大切にするように伝えながら学びを進めていった。これらの実践の中で立てられた子どもたちの問いについて考察する。

Ⅱ．授業実践

1. 説明的文章教材での実践　単元名「こまの楽しさしょうかいカードを書こう」

（1）単元について

・実践時期：　2020 年 6 月～7 月

・教材：「言葉であそぼう」「こまを楽しむ」「全体と中心」「引用するとき」（光村図書）

・学習課題

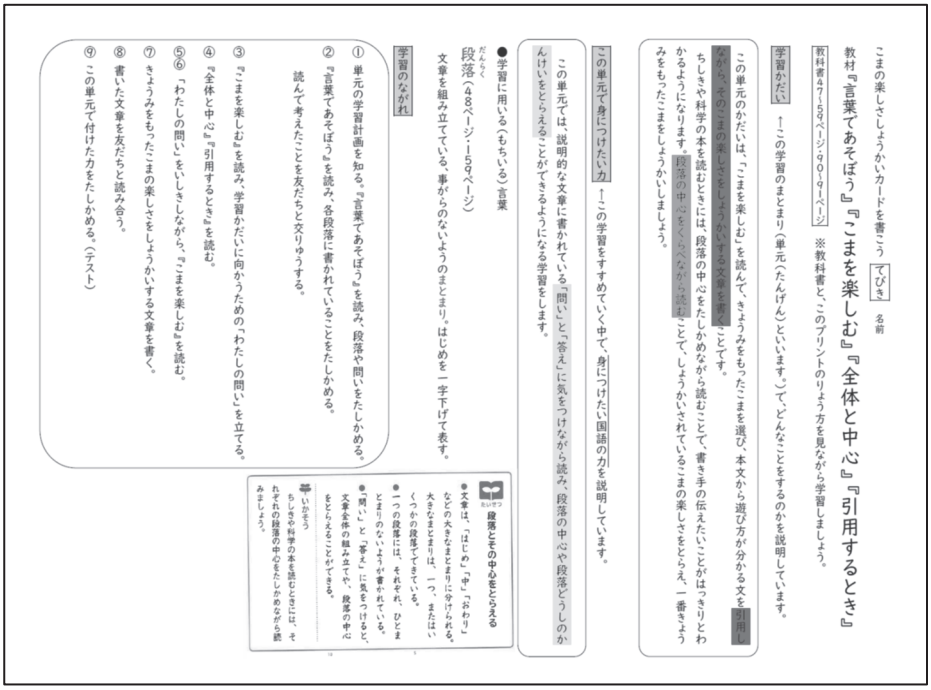
「こまを楽しむ」を読んで、興味をもったこまを選び、本文から遊び方が分かる文を引用しながら、そのこまの楽しさを紹介する文章を書く。

・単元で付けたい力

説明的な文章に書かれている「問い」と「答え」に気をつけながら読み、段落の中心や段落同士の関係を捉えることができる。

（2）問いについて

本単元では，単元の前半で短い説明的文章（「言葉で遊ぼう」）を読み，文章内の「問い」と「答え」や段落の中心など，指導事項となる，必要な事柄を読み取る練習をした後に，中心教材である「こまを楽しむ」を読む流れを取った。また，「こまを楽しむ」を読み始める際に，言語活動である「こまの楽しさしょうかいカード」の例として，単元の前半で扱った「言葉で遊ぼう」に書かれた言葉遊びを紹介する文章（図２）を提示し，学習のゴール像を示した。一人一人の「私の問い」 は，この段階で「学習課題に向かうための問い」として立てさせた。本学級の児童にとっては，一人一人が自分自身の問いを立てるという経験が初めてであった。そのため，第３時で初めて問いを立てた時には，本文を読んで自分が紹介したいこまを見つけるのに精いっぱいで，問いを立てるまでに至らなかった子も数人いた。また，紹介カードを書くという学習課題に対してではなく，本文に書かれているこまの特徴に対しての疑問，つまり説明文の内容に関わる問いになっている子が多かった（図３）。そこで，子どもたちの立てた問いを一覧にして提示し，学習課題解決するための問いとしてよりふさわしい問いはどのようなものかを話し合い，それぞれ自分の問いを見直す時間を設けた上で，必要を感じた場合は問いを立て直すように促した（図４）。


こまの楽しさしょうかいカードを書こう　てびき　名前

教材『言葉であそぼう』『こまを楽しむ』『全体と中心』『引用するとき』

教科書47～59ページ・90～91ページ　※教科書と、このプリントのりょう方を見ながら学習しましょう。

学習かだい　←この学習のまとまり（単元〈たんげん〉といいます）で、どんなことをするのかを説明しています。

この単元のかだいは、「こまを楽しむ」を読んで、きょうみをもったこまを選び、本文から選び方が分かる文を引用しながら、そのこまの楽しさをしょうかいする文章を書くことです。

ちしきや科学の本を読むときには、段落の中心をたしかめながら読むことで、書き手の伝えたいことがはっきりとわかるようになります。段落の中心をくらべながら読むことで、しょうかいされているこまの楽しさをとらえ、一番きょうみをもったこまをしょうかいしましょう。

この単元で身につけたい力　←この学習をすすめていく中で、身につけたい国語の力を説明しています。

この単元では、説明的な文章に書かれている「問い」と「答え」に気をつけながら読み、段落の中心や段落どうしのかんけいをとらえることができるようになる学習をします。

●学習に用いる（もちいる）言葉

段落（だんらく）（48ページ・59ページ）

文章を組み立てている、事がらのないようのまとまり。はじめを一字下げて表す。

学習のながれ

①単元の学習計画を知る。『言葉であそぼう』を読み、段落や問いをたしかめる。

②『言葉であそぼう』を読み、各段落に書かれていることをたしかめる。読んで考えたことを友だちと交りゅうする。

③『こまを楽しむ』を読み、学習かだいに向かうための「わたしの問い」を立てる。

④『全体と中心』『引用するとき』を読む。

⑤⑥「わたしの問い」をいきしながら、『こまを楽しむ』を読む。

⑦きょうみをもったこまの楽しさをしょうかいする文章を書く。

⑧書いた文章を友だちと読み合う。

⑨この単元で付けた力をたしかめる。（テスト）

おもて　段落ごとの中心をとらえる

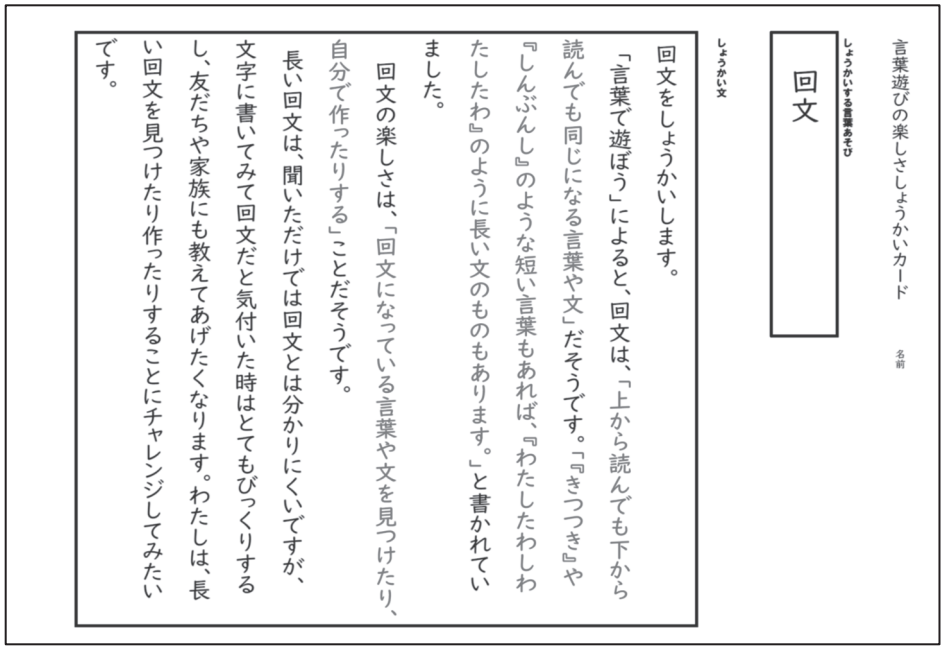
●文章は、「はじめ」「中」「おわり」などの大きなまとまりに分けられる。大きなまとまりは、一つ、またはいくつかの段落でできている。

●一つの段落には、それぞれ、ひとまとまりのないようが書かれている。

●「問い」と「答え」に気をつけると、文章全体の組み立てや、段落の中心をとらえることができる。

ura　いかそう　ちしきや科学の本を読むときには、それぞれの段落の中心をたしかめながら読みましょう。

図１　「こまの楽しさしょうかいカードを書こう」てびき(註1)


言葉遊びの楽しさしょうかいカード　名前

しょうかいする言葉あそび

回文

しょうかい文

回文をしょうかいします。

「言葉で遊ぼう」によると、回文は、「上から読んでも下から読んでも同じになる言葉や文」だそうです。「『きつつき』や『しんぶんし』のような短い言葉もあれば、『わたしたわしわたしたわ』のように長い文のものもあります。」と書かれていました。

回文の楽しさは、「回文になっている言葉や文を見つけたり、自分で作ったりする」ことだそうです。

長い回文は、聞いただけでは回文とは分かりにくいですが、文字に書いてみて回文だと気付いた時はとてもびっくりするし、友だちや家族にも教えてあげたくなります。わたしは、長い回文を見つけたり作ったりすることにチャレンジしてみたいです。

図２　言語活動の例(註1)

問いを立て直す時間を設けたことで，ほとんどの子が学習課題である「こまの楽しさを紹介する」ということを念頭に置いた問いをもつことができた。しかし，この段階でもこまの仕組みに対する問いを立てた子もいた。

最初に問いを立てた時から「曲ごまの楽しさをしょうかいするには、どうしたらいいか。やってみたいことを書くにはむずかしそうなことが書いてある文を引用する。」と，本文を引用しながら紹介文を書くことを意識していた A 児は，本文を読み進める中で毎時間の振り返りに以下のように書いていた。

「楽しさは書いてあるので、その文を引用したらいいかな？と思った。次は（説明文に示されている問いに対する）答えをしっかり読む。」

「楽しさを見つけられて、それも（筆者の言いたいことの）中心なので紹介カードに書けるかなと思った。」

「なぜ、（筆者が）こまの種類と楽しさをつなげて書いているか話し合えてよかった。」

「中に書かれていることを横に（本時ではそれぞれの段落に書かれていることを表にまとめて並べる活動を行った。）読んで「とくちょう」がそれぞれ見つけられて、しょうかい文が書ける気がますますわいてきた。」

自分自身の問いである「引用」する部分を見つけることを念頭に置き，紹介文を書くことを目指して段階的に学びを進められている様子が分かる。

B 児は，初めに問いを立てた時には「色がわりごまをしょうかいするには」と，自分が紹介したいこまを見つけるだけで止まってしまっていた。問いを立て直した時には「色がわりごまをしょうかいするには、まず色がな

ぜかわるかをたしかめたい。」と，問いの形式にはなっていないものの，色がわりごまを紹介するという目的を意識し，そのためにまず何をするといいのかということを考えることができている。本児は，学習を自ら進めることが得意ではなく，支援を要することが多い子どもであるが，「問いをもつ」ことを意識することで，学習の見通しをもとうとしていることが分かった。明確に問いを立てて文に表すことはできていないものの,主体的に学ぶための一歩を踏み出したように感じられた。また，D 児は，第 5・6 時に「問いを意識しながら『こまを楽しむ』を読む」活動の中で，同じグループの友達が問いを解決するために，一緒に本文を読みながら話し合う姿が見られた。D 児が初めに立てた問いを解決するだけでは，学習課題の達成には届かないものの，グループでの話し合い活動を行う中で，「この問いの答えは分かったから，次はこれを考えよう。」と，文章にして書き表してはいないものの，問いの更新を自ら行っているようだった。問いは，一人ひとりが自らの学習のために立てるものとして教師はとらえていたが，子どもたち同士が，それぞれの問いを周囲の友達に問いかけながら学びを進めることで，互いに学びを支えあう効果があるのではないかと考えられる。

1　鳴りごまの楽しさをしょうかいするのに、わかりやすく楽しくかくにはどうしたらいいだろう。
2　さか立ちごまはなぜどうがまるいんだろう。どうやってさか立つんだろう
3　鳴りごまの楽しさをつたえるには、どうしたらいいのだろう。なんで鳴りごまは音がなるのだろう。
4　曲ごま
5　ずぐりをしょうかいするには、どうやってかんたんにわかりやすくできるのだろう。
6　曲ごまの楽しさをつたえるにはどうしたらいいだろう。
7　鳴りごま
8　色がわりゴマをしょうかいするために、一番いい文の所を引用して書くのにはどうすればいいだろう。
9　ずぐりの楽しさをしょうかいするには、どうやったらいいだろう。
10　鳴りごまをしょうかいするには、
11　色がわりごまのふつうをちがう楽しさを見つけたい。
12　鳴りごまはなぜほかのこまよりよく回るのか。
　なりごまのボーという音をどうやればくわしくしっかりつたえられるか。
13　曲ごまをしょうかいするには、どうやって楽しさをつたえたらいいだろう。
14　曲ごまの楽しさをしょうかいするには、ほかのこまとはちがうすごさをどうやって書こうかな。
15　たたきごまの楽しさをしょうかいするには、ちがうこまにはない楽しさをしょうかいしたい。
　そのためにはどのように読んだらいいのだろう。
16　曲ごまの楽しさをしょうかいするには、どうしたらいいか。
　やってみたいことを書くにはむずかしそうなことが書いてある文を引用する。
17　曲ごまのすごさはどうやってみんなにつたえたらいいかな。おもしろさも教えたい。
18　さかだちごまの楽しさをしょうかいするのに、みんなに分かりやすくしょうかいしたい。
　そのためには、どうやってみんなに分かりやすくつたえればいいのだろう。
19　曲ごまのたのしさをしょうかいするには、わかりやすいところを引用したらつたわるのか。
　ほかにどんな方ほうがあるのか。
20　さかだちごまを楽しくしょうかいするには、教科書のさかだちごまの所を引用する。そのためには？
21　きょくごまの楽しさをどうやってつたえようか。
22　さか立ちごまの楽しさをしょうかいするには、ほかのこまとはちがう動きや形を
　分かりやすくしょうかいする。
23　さかだちごまのおもしろさをしょうかいするには、どのような文をしょうかいしたらいいかな。
24　ずぐりのこまをしょうかいするとき、見た人が分かるようにするにはどうすればいいのだろう。
25　曲ごまの楽しさをしょうかいするには、曲ごまの文のどこをいんようすれば良いだろう。
26　色がわりごまをしょうかいするには、どういうふうに自分の気もちを書けばいいだろう。
　どうしたらわかりやすく書けるだろうか。話の中心をとらえればいいのかな。
27　曲ごまの楽しさをしょうかいおするには、曲ごまのいい文を引用してわかりやすく書く。
　いい文を引用するときは、一番のとくちょうを引用したらいいのかな。
28　さかだちごまを楽しくしょうかいするには、自分が思ったことやとくちょうをみんなにつたえる。
　そのためには、文の中からいいところをさがし引用する。
29　色がわりごまの楽しさをしょうかいするには、色がわりごまのことがよく分かる分をゆっくり読みたい。
　よく分かる文をさがすにはどうしたらいいのだろう。
30　色がわりごまをしょうかいするには
31　色がわりごまは、ただまわすだけではなく、かんたんにできることを知ってほしい。
　（そのためにはどうしたら？）
32　色がわりごまをしょうかいするには

図３　「こまの楽しさしょうかいカードを書こう」問い一覧①

1　鳴りごまの楽しさをしょうかいするのに、わかりやすく楽しくかくにはどうしたらいいだろう。
2　さか立ちごまはなぜどうがまるいんだろう。どうやってさか立つんだろう
3　鳴りごまの楽しさをつたえるには、どうしたらいいのだろう。なんで鳴りごまは音がなるのだろう。
4　曲ごまをどうやってせつめいすればいいだろう。
5　ずぐりをしょうかいするには、どうやってかんたんにわかりやすくできるのだろう。
6　曲ごまの楽しさをつたえるにはどうしたらいいだろう。
7　鳴りごまをしょうかいするには、どのように読むといいだろう。
8　色がわりゴマをしょうかいするために、一番いい文の所を引用して書くのにはどうすればいいだろう。
9　ずぐりの楽しさをしょうかいするには、どうやったらいいだろう。
10　鳴りごまをしょうかいするには、読んだ人もやりたい気持ちにしたい。そのためにはどうしたらいいのか。
11　色がわりごまのふつうをちがう楽しさを見つけたい。
12　鳴りごまはなぜほかのこまよりよく回るのか。
　なりごまのボーという音をどうやればくわしくしっかりつたえられるか。
13　曲ごまをしょうかいするには、どうやって楽しさをつたえたらいいだろう。
14　曲ごまの楽しさをしょうかいするには、ほかのこまとはちがうすごさをどうやって書こうかな。
15　たたきごまの楽しさをしょうかいするには、ちがうこまにはない楽しさをしょうかいしたい。
　そのためにはどのように読んだらいいのだろう。
16　曲ごまの楽しさをしょうかいするには、どうしたらいいか。
　やってみたいことを書くにはむずかしそうなことが書いてある文を引用する。
17　曲ごまのすごさはどうやってみんなにつたえたらいいかな。おもしろさも教えたい。
18　さかだちごまの楽しさをしょうかいするのに、みんなに分かりやすくしょうかいしたい。
　そのためには、どうやってみんなに分かりやすくつたえればいいのだろう。
19　曲ごまのたのしさをしょうかいするには、わかりやすいところを引用したらつたわるのか。
　ほかにどんな方ほうがあるのか。
20　さかだちごまを楽しくしょうかいするには、教科書のさかだちごまの所を引用する。
　そのためにはどうしたらいいか。
21　きょくごまの楽しさをどうやってつたえようか。
22　さか立ちごまの楽しさをしょうかいするには、
　ほかのこまとはちがう動きや形を分かりやすくしょうかいするといいのか。
23　さかだちごまのおもしろさをしょうかいするには、どのような文をしょうかいしたらいいかな。
24　ずぐりのこまをしょうかいするとき、見た人が分かるようにするにはどうすればいいのだろう。
25　曲ごまの楽しさをしょうかいするには、曲ごまの文のどこをいんようすれば良いだろう。
26　色がわりごまをしょうかいするには、どういうふうに自分の気もちを書けばいいだろう。
　どうしたらわかりやすく書けるだろうか。話の中心をとらえればいいのかな。
27　曲ごまの楽しさをしょうかいするには、曲ごまのいい文を引用してわかりやすく書く。
　いい文を引用するときは、一番のとくちょうを引用したらいいのかな。
28　さかだちごまを楽しくしょうかいするには、自分が思ったことやとくちょうをみんなにつたえる。
　そのためには、文の中からいいところをさがし引用する。
29　色がわりごまの楽しさをしょうかいするには、色がわりごまのことがよく分かる文をゆっくり読みたい。
　よく分かる文をさがすにはどうしたらいいのだろう。
30　色がわりごまはなぜさいしょよりどんどんいろがかわっていくのだろう。
31　色がわりごまは、ただまわすだけではなく、かんたんにできることを知ってほしい。
　そのためにはどうしたら？
32　色がわりごまをしょうかいするには、まず色がなぜかわるかをたしかめたい。

図４　「こまの楽しさしょうかいカードを書こう」問い一覧②

2. 物語教材での実践①

単元名「場面をくらべながら読み、考えたことと、自分の体けんを関わらせて、ちいちゃんにお手紙を書こう」

（1）単元について

・実践時期：　2020 年 9 月～10 月

・教材

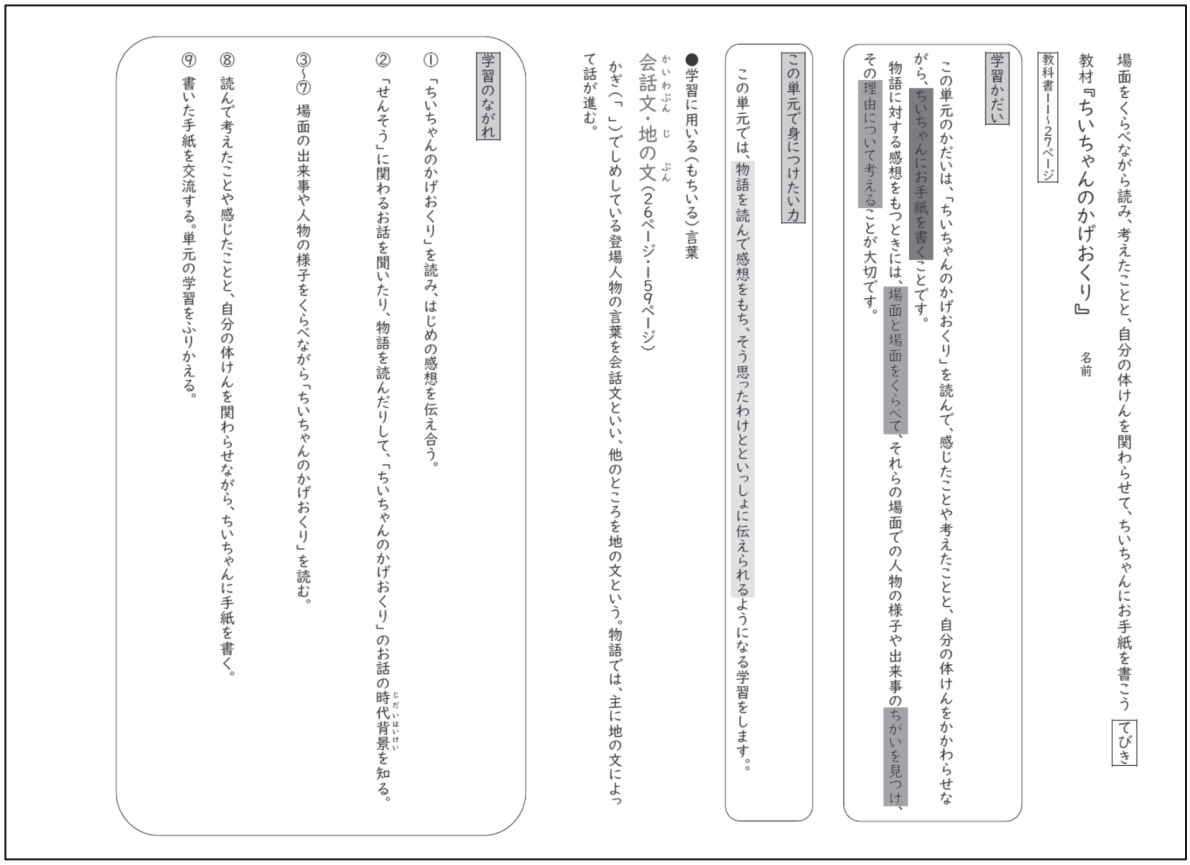
「ちいちゃんのかげおくり」（光村図書）

・学習課題

「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、感じたことや考えたことと、自分の体けんをかかわらせながら、ちいちゃんにお手紙を書く。

・単元で付けたい力

物語を読んで感想をもち、根拠や理由とともに伝え合うことができる。



場面をくらべながら読み、考えたことと、自分の体けんを関わらせて、ちいちゃんにお手紙を書こう　てびき

教材『ちいちゃんのかげおくり』　名前

教科書1～27ページ

学習かだい

この単元のかだいは、「ちいちゃんのかげおくり」を読んで、感じたことや考えたことと、自分の体けんをかかわらせながら、ちいちゃんにお手紙を書くことです。

物語に対する感想をもつときには、場面と場面をくらべて、それらの場面での人物の様子や出来事のちがいを見つけ、その理由について考えることが大切です。

この単元で身につけたい力

この単元では、物語を読んで感想をもち、そう思ったわけといっしょに伝えられるようになる学習をします。

●学習に用いる（もちいる）言葉

会話文・地の文（26ページ・159ページ）

かぎ（「　」）でしめしている登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。物語では、主に地の文によって話が進む。

学習のながれ

① 「ちいちゃんのかげおくり」を読み、はじめの感想を伝え合う。

② 「せんそう」に関わるお話を聞いたり、物語を読んだりして、「ちいちゃんのかげおくり」のお話の時代背景を知る。

③～⑦ 場面の出来事や人物の様子をくらべながら「ちいちゃんのかげおくり」を読む。

⑧ 読んで考えたことや感じたことと、自分の体けんを関わらせながら、ちいちゃんに手紙を書く。

⑨ 書いた手紙を交流する。単元の学習をふりかえる。

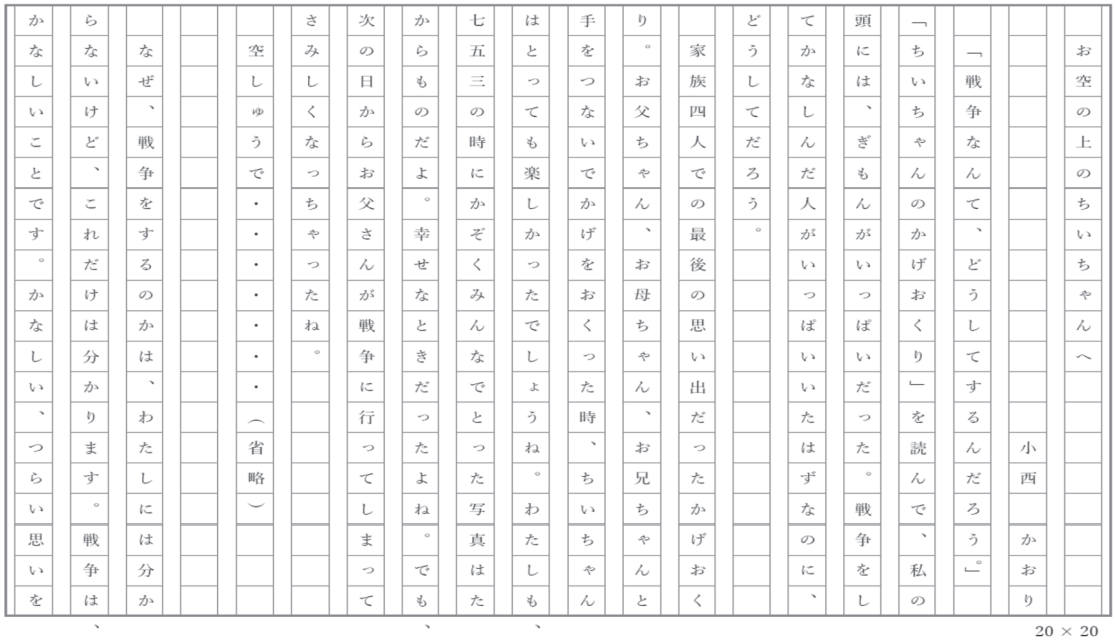
図 5「場面をくらべながら読み、考えたことと、自分の体けんを関わらせて、ちいちゃんにお手紙を書こう」　てびき(註 2)

（2）問いについて

本単元では，「ちいちゃんのかげおくり」を読み，　物語の時代背景について知る時間を設けた後に，言語活動の例（図６）を提示し，一人一人の問いを立てた。（図７）

物語文を読む単元では，説明文を読む単元よりも，子どもたちの問いがその内容に関わるものになりがちである。「学習課題や身につけたい力を意識して問いをもとう。」「学習の終わりにお手紙を書くためには，どのように学習を進めていくといいかな。」と声をかけながら問いを立てたものの，物語の内容だけに関わる問いになっている子と問いを立てるに至らなかった子が学級の２割程度いた。また，「えらんだの（場面）をくわしく読むにはどうしたら読めるのだろう。」や「ちいちゃんの気持ちと、自分の体けんを関わらせるには、どうしたらいいだろう。」のように，学習課題に向かうための学習の進め方を意識しながら問いを立てられているが，手引き

に書かれた言葉をそのまま問いの形にしたような，具体性に乏しい問いも多くあった。



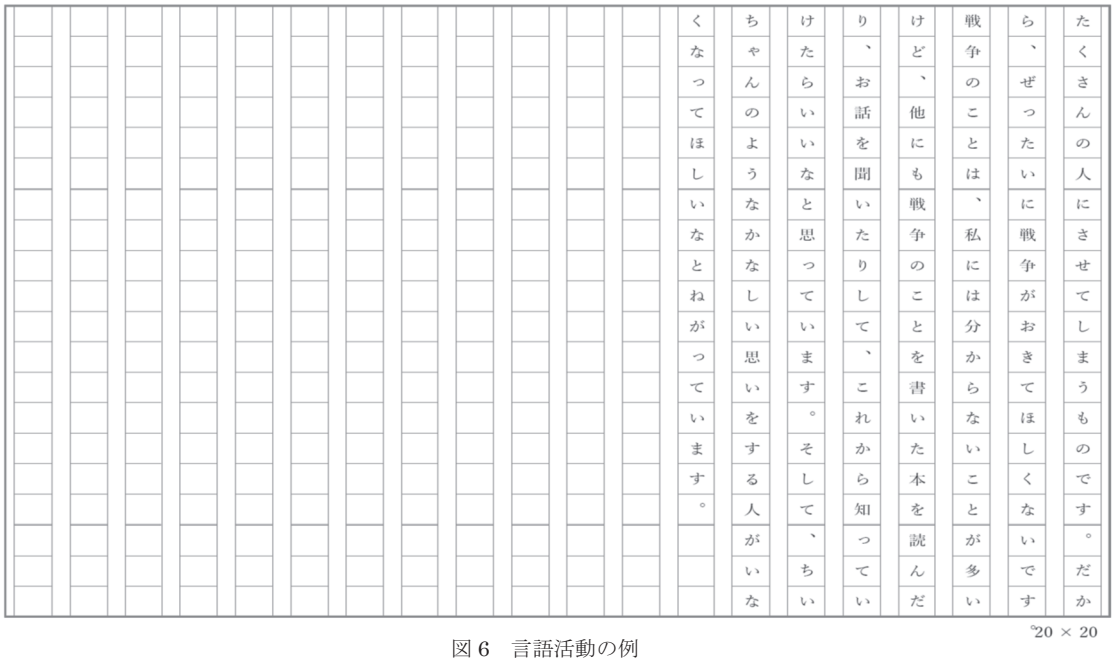


図 6　言語活動の例

一方，図 7「3 の（場面の）ちいちゃんの気持ちは『さみしくて、早く帰ってきてほしい』と思うけど、この物語での気持ちはどの言葉に注目したら分かるだろうか。」という C 児の問いは，物語の内容に意識が向きがちではあるものの，その場面での登場人物の気持ちを読み取るために，叙述をもとに考えていくという学習の方向性を見据えることができている。この子は，第 3〜5 時で場面ごとに場面の様子や人物の気持ちを読み取ったときに「気持ちの読み取り方が分かった。1 の場面のちいちゃんの気持ちは考えたところまでではかげおくりという遊びを知って楽しい気持ちだった。でも、(1 の場面の）最後は出来なくなったからざんねんな気持ちだと思う。」と振り返りを書いていた。問いの文では，「3 の場面をどう読むか。」としていて，個別の場面のことを考えているが，一つの場面で気持ちの読み取り方を学んだことを，他の場面にも生かして読むことができていた。

1	ちいちゃんの気持ちと、自分の体けんを関わらせるには、どうしたらいいだろう。
2	どうしたら場面をくらべられるのか。
3	一人でかげおくりをしたちいちゃんの気持ちをそうぞうするにはどうしたらいいだろう。 場面と場面をどうやってくらべていったらいいのだろう。
4	３のところをちいちゃんが早く帰ってきてほしいと思っているだろう。
5	ちいちゃんは、あのとき何を思っているのだろうか。どんな気持ちだったのだろうか。
6	ちいちゃんは、お母さんとはぐれた時どう思ったのだろう。
7	思いつかなかったけど考えられた。
8	これから、ちいちゃんのかげおくりを読んで、登場人物の気持ちをどうすれば分かるのか。
9	ちいちゃんが本当に思っていたことをそうぞうして読むにはどうしたらいいだろう。
10	どのようにすれば、ちいちゃんのつらい気持ちがわかるのだろう。
11	欠席
12	４だんらくで、なぜ一人でかげおくりをしているのに、くっきりとかげが４つできたのか。
13	この物語を読んでいく中で、どうやって場面をくらべたらいいだろう。
14	２と３のばめんで少しは登場人物の気持ちで読めているけど、もっと登場人物のきもちになって 読むにはどうしたらいいだろう。
15	３～４を読んで、場面のちがいを知るにはどうすればよいのだろう。
16	３のちいちゃんの気持ちは「さみしくて、早く帰ってきてほしい」だと思うけど、 この物語での気持ちはどの言葉に注目したら分かるだろうか。
17	ちいちゃんに手紙を書けるようにしたいです。
18	友だちに分かりやすくちいちゃんの気持ちを説明するにはどうすればいいだろう。
19	えらんだ場面と場面をくらべるには、どうやって読んだらくらべることができるのだろう。
20	欠席
21	読んでいく中で、ちいちゃんのことを知るにはどうすればいいか。
22	読んでいく中で「ちいちゃんの気持ちや思っていることをくわしく見つけるにはどうすればいいだろうか。
23	３～４を読んで、その時のちいちゃんの気持ちがどうやって分かるだろう。１～２を読んで家族で かげおくりをしている時のお父さんとちいちゃんの気持ちも。
24	一のばめんでかげおくりを教えてもらったときに、ぼくの思いでは、うれしそうだけどかなしい気持ちなど を見つけるには、どのように読めばいいんだろうか。
25	最初のちいちゃんの気持ちと最後のちいちゃんの気持ちは「うれしい」と思うけど、本当はどんな気持ち なんだろう。それを調べるには、「ちいちゃんのかげおくり」を読んでどのようなキーワードに気を付けて 読むと気持ちが分かるだろう。そうやって、見つけたキーワードを使って手紙を書くにはどうすればいい だろう。
26	ちいちゃんの気持ちをくわしく知るにはどうしたらいいだろう。場面と場面をくらべるにはどうすれば いいだろう。
27	"３の場面でなくなってしまった家でお母ちゃんお兄ちゃんをまっている、一人ぼっちのちいちゃんに話し かけるには、ちいちゃんの気持ちになったらいいのだろうか。４の場面をもっとくわしく読んでいくには、 どうすれば、よりいっそうくわしく読めるのだろう。"
28	なぜ、ちいちゃんはお母さんたちが来ると思ったのか。くわしくちいちゃんのことを知るにはどうすれば いいのか。
29	お母さん、お兄ちゃんとはぐれて一人ぼっちになった時はどんな気持ちだろう。
30	えらんだのをくわしく読むにはどうしたら読めるのだろう。
31	なぜ、お家にお母さんとおにいちゃんがいると思ったのかな。
32	「わたしの問い」は分からないけど次に書くことを考えてやりたい。

図７　「場面をくらべながら読み、考えたことと、自分の体けんを関わらせて、ちいちゃんにお手紙を書こう」問い一覧

3. 物語教材での実践②

単元名「登場人物について、話し合おう」

1）単元について

・実践時期：　2021 年 2 月

・教材：「モチモチの木」（光村図書）

・学習課題

物語を読み、中心人物のみ力（せいかく・すきな場面でしたこと・できたこと・物語の中に出てきたすてきな言葉など）を伝える「人物しょうかい記事『ひと』」を書く。

・単元で付けたい力

物語の登場人物の気持ちが、場面ごとに変わっていくことや、人物のせいかくなどを、それぞれの場面に書かれている言葉から想像し、自分が考えたことを書いたり、友だちに伝えたりすることができる。

(2)「わたしの問い」について

本単元では，第１時に学習課題や言語活動の例（図 9）を全体で確認し，第２時に，語彙の学習として人物の性格を表す言葉を集める学習をした。その後，第３時の初めに子どもたちが一人ひとりの問いを立てた。(図 10)

本単元は，第３学年国語科で学ぶ最後の単元であった。これまで国語科では，問いをもちながら学ぶということを数回続けてきたこともあり，あまり多くの助言をしないで問いを立てさせた。結果として，物語の内容に関わる問いになっている子が半数近くになった。

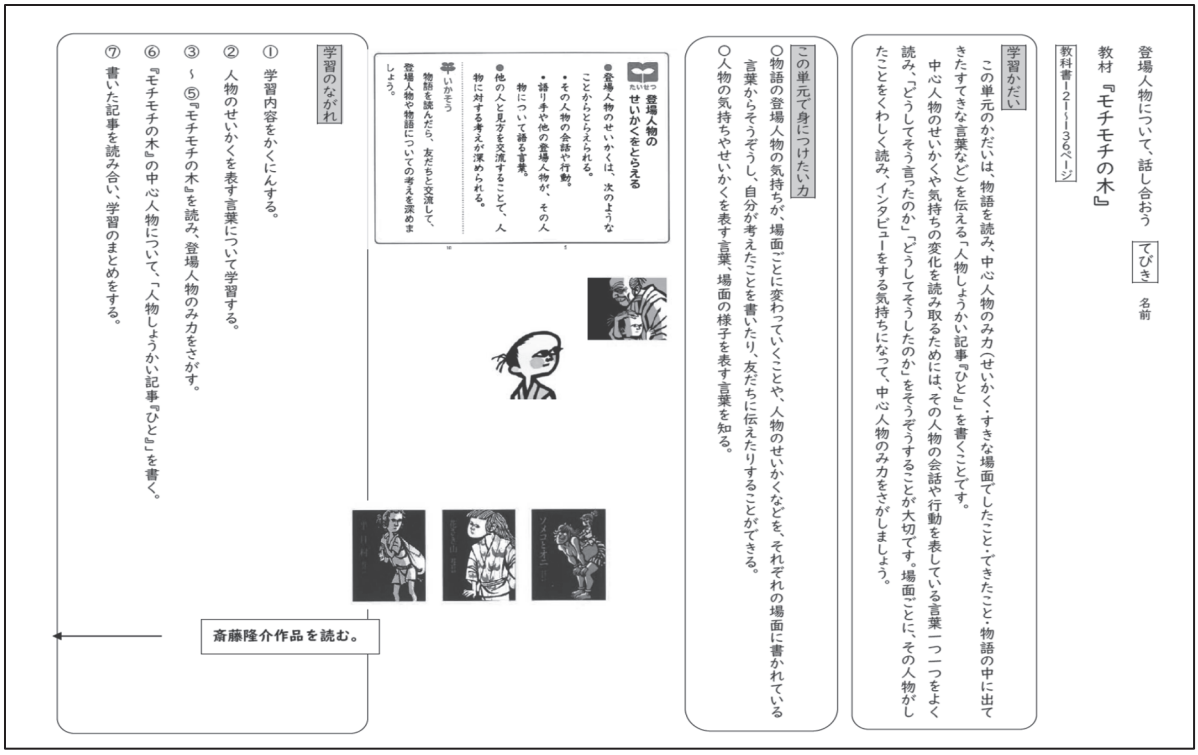
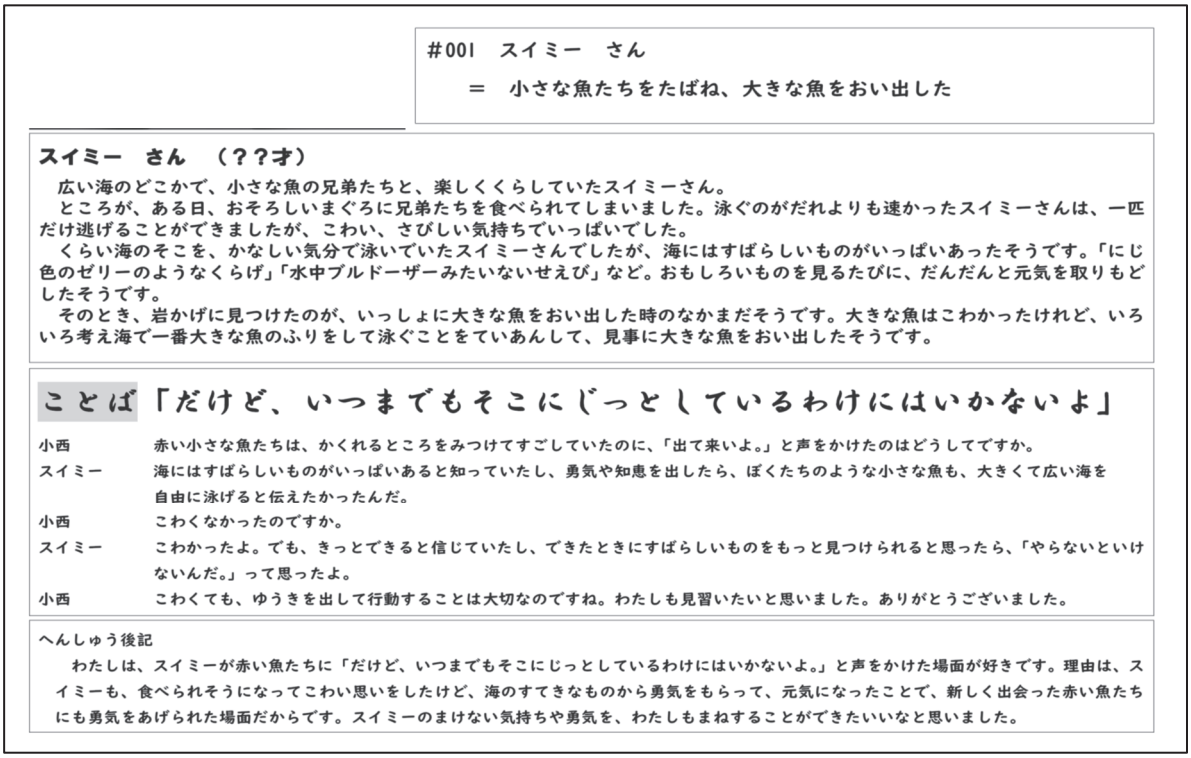


図８　「登場人物について、話し合おう」　てびき(註2)



#001　スイミー　さん

＝　小さな魚たちをたばね、大きな魚をおい出した

スイミー　さん　（？？才）

広い海のどこかで、小さな魚の兄弟たちと、楽しくくらしていたスイミーさん。

ところが、ある日、おそろしいまぐろに兄弟たちを食べられてしまいました。泳ぐのがだれよりも速かったスイミーさんは、一匹だけ逃げることができましたが、こわい、さびしい気持ちでいっぱいでした。

くらい海のそこを、かなしい気分で泳いでいたスイミーさんでしたが、海にはすばらしいものがいっぱいあったそうです。「にじ色のゼリーのようなくらげ」「水中ブルドーザーみたいないせえび」など。おもしろいものを見るたびに、だんだんと元気を取りもどしたそうです。

そのとき、岩かげに見つけたのが、いっしょに大きな魚をおい出した時のなかまだそうです。大きな魚はこわかったけれど、いろいろ考え海で一番大きな魚のふりをして泳ぐことをていあんして、見事に大きな魚をおい出したそうです。

ことば「だけど、いつまでもそこにじっとしているわけにはいかないよ」

小西	赤い小さな魚たちは、かくれるところをみつけてすごしていたのに、「出て来いよ。」と声をかけたのはどうしてですか。
スイミー	海にはすばらしいものがいっぱいあると知っていたし、勇気や知恵を出したら、ぼくたちのような小さな魚も、大きくて広い海を自由に泳げると伝えたかったんだ。
小西	こわくなかったのですか。
スイミー	こわかったよ。でも、きっとできると信じていたし、できたときにすばらしいものをもっと見つけられると思ったら、「やらないといけないんだ。」って思ったよ。
小西	こわくても、ゆうきを出して行動することは大切なのですね。わたしも見習いたいと思いました。ありがとうございました。

へんしゅう後記

わたしは、スイミーが赤い魚たちに「だけど、いつまでもそこにじっとしているわけにはいかないよ。」と声をかけた場面が好きです。理由は、スイミーも、食べられそうになってこわい思いをしたけど、海のすてきなものから勇気をもらって、元気になったことで、新しく出会った赤い魚たちにも勇気をあげられた場面だからです。スイミーのまけない気持ちや勇気を、わたしもまねすることができたいいなと思いました。

図９　言語活動の例（2年生「スイミー」を例にして）

本単元の学習課題が「中心人物の魅力を伝える」というものであったためか，「なぜ豆太はおくびょうでゆうきがないのか。」「豆太はどのような性格の人物かな。豆太は何かを見た時、する時どう思っているかな。」のように，人物の性格や行動に対する疑問を挙げる子が数人いた。また，「豆太はどうして、また、おくびょうになったか。」や「ゆうきがあるのに、またもどるのはなぜ。おくびょうなのになぜ外に出られたのか。」のように，物

1　どうやったら、豆太ががんばって勇気を出したことを知れるだろうか。
2　どうすれば人物の気持ちをそうぞうできるだろう。また、どうすれば上手に説明できるのだろう。
3　豆太はなんではだしで走っていたのか。
なんで夜中に一人でしょんべんができないのか。
モチモチの木に灯がついていた時はどんな気持ちか。
なぜ豆太はおくびょうでゆうきがないのか。
4　登場人物の気持ちをどうやってインタビューしよう。
5　登場人物の気持ちをどうやってさがして、どうしたらインタビューできるだろうか。
6　豆太の気持ちをりかいして、心の中でインタビューするといいと思う。
7　どうやったら豆太の気持ちをはっけんできるだろう。
8　どうやったら、人物のみ力（せいかくなど）のことが知れるのか。
9　ゆうきがあるのに、またもどるのはなぜ。おくびょうなのになぜ外に出られたのか。
10　豆太はなぜ、しもがあるのにはだしで行ったのか。
11　豆太はほんとうにおくびょうなのかな。
12　正しいインタビュー（しっかり文章を読む）をすればいい感じに書けると思う。
13　この物語を読んで「ひと」を書くために、どこをどのように読めばいいのだろう。
14　豆太は、なぜゆう気があるときと、おくびょうな時があるのか。
15　豆太はなぜくじけずにあきらめずに医者様の所へ行けたのだろう。
16　五つの話に書いてある、せいかくを表す言葉はにているのか、それぞれちがうのか。
17　豆太にインタビューするために、どんなことを大切にしたら上手にできるかな。
18　どうすれば豆太の気持ちを分かりやすく説明できるだろう。
19　どう読んだら、人物のしたこと（あらすじ）がくわしく分かるようになって、
どうやったらうまく「人物しょうかい記事『ひと』」を書くことができるのか。
20　豆太は五才なのに、夜を走るのがこわくなかったのですか。
21　豆太はどうして、また、おくびょうになったか。
22　モチモチの木を読み，自分が思ったことを言葉にして豆太にインタビューをしよう
23　どうやってくわしく聞いたらいいのか。
24　なぜゆう気をだせたのに、またずっとゆう気を出さなかったんだろうか。
25　人物のプロフィール・せいかくは，どの文を読めば分かるだろう。
また、その時の思いは、どんな質問をすれば分かるだろう。"
26　豆太はどうしてそんなにおく病なのかな。
27　豆太はどのような性格の人物かな。豆太は何かを見た時、する時どう思っているかな。
28　登場人物のとくちょうやせいかくを知るにはどうすればいいかな。
29　豆太は、なぜ一人で医者をよべたのに、一人でトイレに行けないのだろう。
30　山の神に会うのは豆太にとって特別なのか。
31　どうしてあれだけゆう気を出せたか。
32　なぜ、豆太は夜がきらいなのにじさまはおどろかすのか。

図 10　「登場人物について、話し合おう」　問い一覧

語の内容に焦点が当たっているものの，単元で身につけたい力である「物語の登場人物の気持ちが、場面ごとに変わっていくことを読み取る」ということを意識している様子が見られる問いもあった。「人物のプロフィール・せいかくは，どの文を読めば分かるだろう。また、その時の思いは、どんな質問をすれば分かるだろう。」という問いを立てた D 児は，これまでの国語の単元でも，学習課題を達成するためにはどのような道筋で学習するといいかを考えて問いを立て，問いの解決を意識しながら学びを進めていた。このような子どもたちの姿から，学習課題に向けて，自分自身で問いをもちながら学ぶことで，主体的な学びに近づくことができているのではないかと考える。

Ⅲ．おわりに

今回，年間を通して国語科の授業の中で「問いをもちながら学ぶ」ことを指導する中で，子どもたちの問いのもち方や学び方について検討した。

子どもたちが学習課題や身に着けたい力を知ったうえで，問いをもちながら学ぶことを繰り返すことで，教師の発問や指示に頼りすぎず，主体的に学びを進める姿を少しずつではあるものの実現することができた。しかし，子どもたちが立てた問いの中身をよく見てみると，課題も多く見えてきた。単元全体を捉え，学習の見通しをもてるような問いを自分自身の力で考え，文章に表すことは容易ではなかった。これは，小学校 3 年生という発達段階による部分も大きいかもしれない。単元全体を見通して学習を進めていくためには，単元の初めの段階で 1

つの問いを立ててそこに向かうだけではなく，必要に応じて新たな問いをもてるような単元の流れを作ることも必要だろう。また，「読むこと」の単元の中では，子どもたちから物語や説明的文章の内容に関わる問いが多く生まれた。これは，読むことの対象の文章に興味をもって学習に取り組めているということであり，自然なことではあるものの，その先にある学習課題をしっかりと意識させ，学習課題へ向かうための問いをもたせられるようにしたい。そのためにも，学習課題や身に着けたい力（コンピテンシー）とそれを達成するための学習教材（コンテンツ）の違いを，発達段階に合わせた形で子どもたちに意識させるような手立ても必要なのではないかと考える。

以上の課題を解決するために，今後も実践を重ね検討していきたいと考える。

註

(1)光村図書（2020)『小学校国語三年　上』光村図書出版　より一部引用

(1)光村図書（2020)『小学校国語三年　下』光村図書出版　より一部引用

参考文献

文部科学省（2016)「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pd

青木幹勇（1989)『問題をもちながら読む』明治図書出版

達富洋二（2019)「国語科単元において学習課題から《私の問い》を立てること」『月刊国語教育研究』 No.567，７月号，pp42-49

藤田智之（2019)「浜口儀兵衛の生き方に意見する－言語活動を通して国語の力をつけるために－」日本国語教育学会編『第 82 回国語教育全国大会研究要項』p87

松本 修編（2020)『小学校国語科 〈問い〉づくりと読みの交流の学習デザイン 物語を主体的に読む力を育てる理論と実践』明治図書出版

河合晋司・藤田智之・小西かおり・森本晏以（2020)「子どもが自ら「問い」をたて，「問い」をもちながら学びを深めていく国語単元学習の構築」『教職キャリア高度化センター教育実践研究紀要第２号』pp 155-162

河合晋司（2020)「単元の中で『問い』をもちながら，自ら学びを開いていく子どもの姿を目指した実践」京都教育大学国文学会誌第四十八号 pp 11-24